



激動の幕開け、令和6年の年頭に想うこと・・・



令和6年が幕を開けました。今年は十干では甲、十二支では辰にあたるため、甲辰（きのえたつ）の年となります。甲とは「甲乙丙丁～癸」の始まりであり、物事の始まりと捉えることができ、辰は発芽した植物がしっかりとした形になる、勢いと大きな力、成功ととらえることができます。この2つが合わさる甲辰は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった縁起のよい年になると考えられています。まさに令和7年

度に栄桜小中学校の開校を控えている小栗栖中学校にはピッタリの年だといえます。

ところが、年の初めから信じられないような出来事が立て続けに起こりました。まずは1月1日の16時10分頃に起こった「令和六年能登半島地震」と名付けられた震度7の大地震。お正月の楽しい時間、各家庭や旅行先で過ごしている時間に起こりました。京都市内でも記憶の中では阪神淡路大震災の時以来の揺れを感じ、実際は30秒程の時間だったのですがとても長く感じましたし、ニュースで知った「京都市内震度3」の表示に「震度7」への恐怖を感じました。2日の朝から少しずつ被害の様子がわかり始め、甚大な被害が見えてきました。

1月2日の夕方のニュースで火事の現場が映し出されていたので「まだ燃えているのか？」と思った瞬間に飛び込んできたニュースにまた唖然としました。午後6時頃に旅客機と海上保安庁の航空機が滑走路上で衝突し炎上するという事故です。原因はまだ解明されていませんが、その海上保安庁の航空機は先に述べた能登半島地震の被災地に救援物資を届けるための飛行機であったことに何ともやるせない、心が痛む出来事です。

ところが「教訓」とはこのことだと思います。というのは旅客機の乗客乗員379人が3か所の非常脱出口から全員避難できたということです。映像にもありましたが外で機体が燃え盛り、熱い空気すら感じられる中、全員が脱出できたことは凄いことです。イギリスでは「多くの乗客・乗員がいたのに脱出できたことは奇跡的だ」アメリカでは「極限状態における教科書のような避難だった」と称賛されています。会社側も「90秒以内に乗客・乗員が脱出できる訓練を毎年している。その成果が生きた」コメントされていますが、訓練に参加しているのは実際の乗客ではありませんからいかに適切な指示がなされたかということが推測できます。小栗栖中学校でも1月12日に避難訓練を予定していますが、みなさんの真剣に取り組む姿勢が必要となります



「共に創る 共に生きる～Creating Dreams, Building Hearts～」

同じく1月2日駅伝を観ていました。一人だけの力ではなくみんなの協力があって勝ちに繋がる駅伝。不調な選手がいてもそれを取り返そうとすることで共感しています。その中継を観ている中でどうしても心に残るCMが流れたので調べてみました。それは瀬戸内海の島でレモン栽培をする農家の方々にレモンの良さを改めて知ってもらおうとするものです。

「島の人々にとってあたりまえの存在であるレモンも、ちがう角度から光を当てればまた新しい価値がうまれる。ひとつひとつはささやかでも、きっと未来は変わっていく。この土地で生きる歓びを共に創り、次世代へとつないでいく人々の姿。瀬戸内の美しい自然、レモンの黄色の眩しさとともに、私たちが目指したいこれからの「共創共生」の形が、ここにありました。」という風に紹介されていました。

CMの最後に「この土地で生きる喜びを自分たちの手で創り、育て、そしてつないでいくこと。それはきっと明日を変える力になる」と流れたコメントをそのまま小栗栖に置き換えてみたいと思いました。

< 1月の予定 >

1月 9日（火）	P T A あいさつ運動（登校時） 昼食開始 冬休み明け確認テスト（5・6限） P T A 運営委員会（19時～）
12日（金）	避難訓練（6限：火災）
16日（火）	地生連情報交換会（19時）
17日（水）	3年学年末考査 ～19日
22日（月）～	1・2年学習確認プログラム
25日（木）	面接練習（3年）
29日（月）	小栗栖漢字検定